



Daiwa House®
Group

心と生活に寄り添いながら

大和ハウスライフサポート株式会社
もみの樹・渋谷本町
生活サービスグループ
山本 弘樹

Daiwa House
Group

A様が安らげる場所を提供したい
～日々穏やかに過ごす為の支援～

介護付有料老人ホーム もみの樹・渋谷本町

当施設は、定員55床で、看護師が24時間常駐、常勤機能訓練指導員の配置、法令基準の1.5倍のスタッフを配置しております。

渋谷区の住宅街にあり、地域ぐるみのイベント等も行っており、地域に根差した都市型の有料老人ホームです



1階エントランス

外観

5階メインダイニング



● 事例検討のテーマ

『睡眠効率』が良くなると

『行動・心理症状』も軽減するのか？

今回の事例検討で、1人のご入居者様の行動・心理症状「BPSD」が軽減していききました
日中の活動量の増加や、夜間帯の排泄コントロールにより睡眠効率がどう変化していったのか？



A様

男性／80歳代後半／要介護3
賑わっている場所が好き



▶ 現病歴

- 2018年食道癌放射線治療 食道癌
- 2019年頃より認知機能の低下が見られた
- 妄想や突然暴れる等生活課題も多く 自宅復帰は困難
- 2021年1月胸水と血尿が見られ検査を行い異常無いが生活課題も多い事から当施設に入居となった

倫理的配慮について

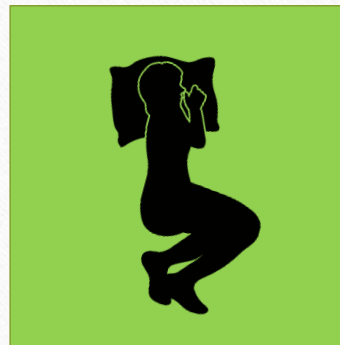
当社の倫理規定において、個人情報が特定されないよう表現上の配慮を行った上で、A様のご家族様に本報告の主旨を口頭で説明し、同意を得ております。



ー 以下の視点で、入居期／変化期／安定期の3つの期間に分けて評価 ー



ご本人の状態



睡眠状況

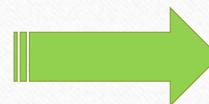


体操・アクティビティ参加状況

代表的な尺度にZarit介護負担尺度があり、各国で翻訳され頻用されています。

これは身体的負担、心理的負担、経済的困難など22項目総合して計測する尺度である。

全項目を合計して得点化するため、どのような状況においてどのような負担感が高いかを評価することには限界があり、合計点だけではなく、各項目の得点も検討されています。



▶ 介護負担尺度



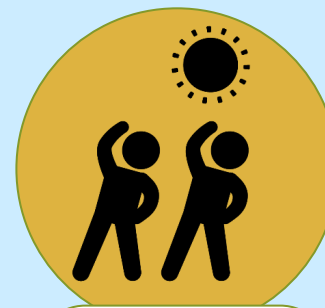
ご本人の状態

- 表情が険しい
- 自発的な運動は拒否
- 叫んだり、スタッフを叩こうとする事あり
- 食事中物を投げる事あり
- 昼夜逆転している
- 日中傾眠が強く、活動は殆どない。



睡眠状況

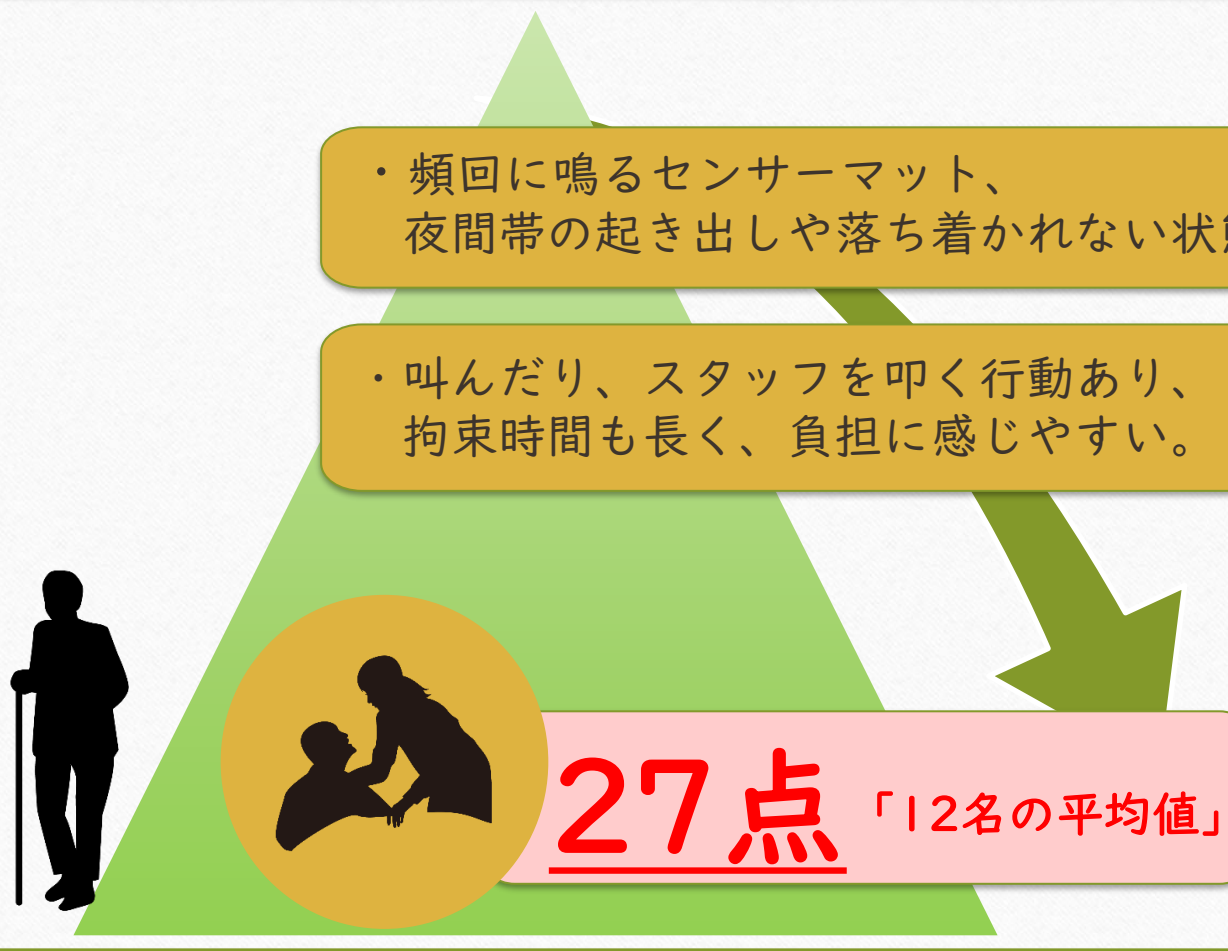
- 平均睡眠時間 **3時間3分**
- 睡眠率 **31%**
- 夜間帯頻回に起きられ、不眠の為日中傾眠状態が見られる
- 18時～20時の間が特に起きられている事が多い



体操・アクティビティ

- 体操参加率 **10%**
- アクティビティの参加率 **12%**
- 昼夜逆転傾向にあり、傾眠が強く声掛けを行うもあまり参加せず
- 拒否が強く、覚醒状態が良い事が殆どない為参加が難しい



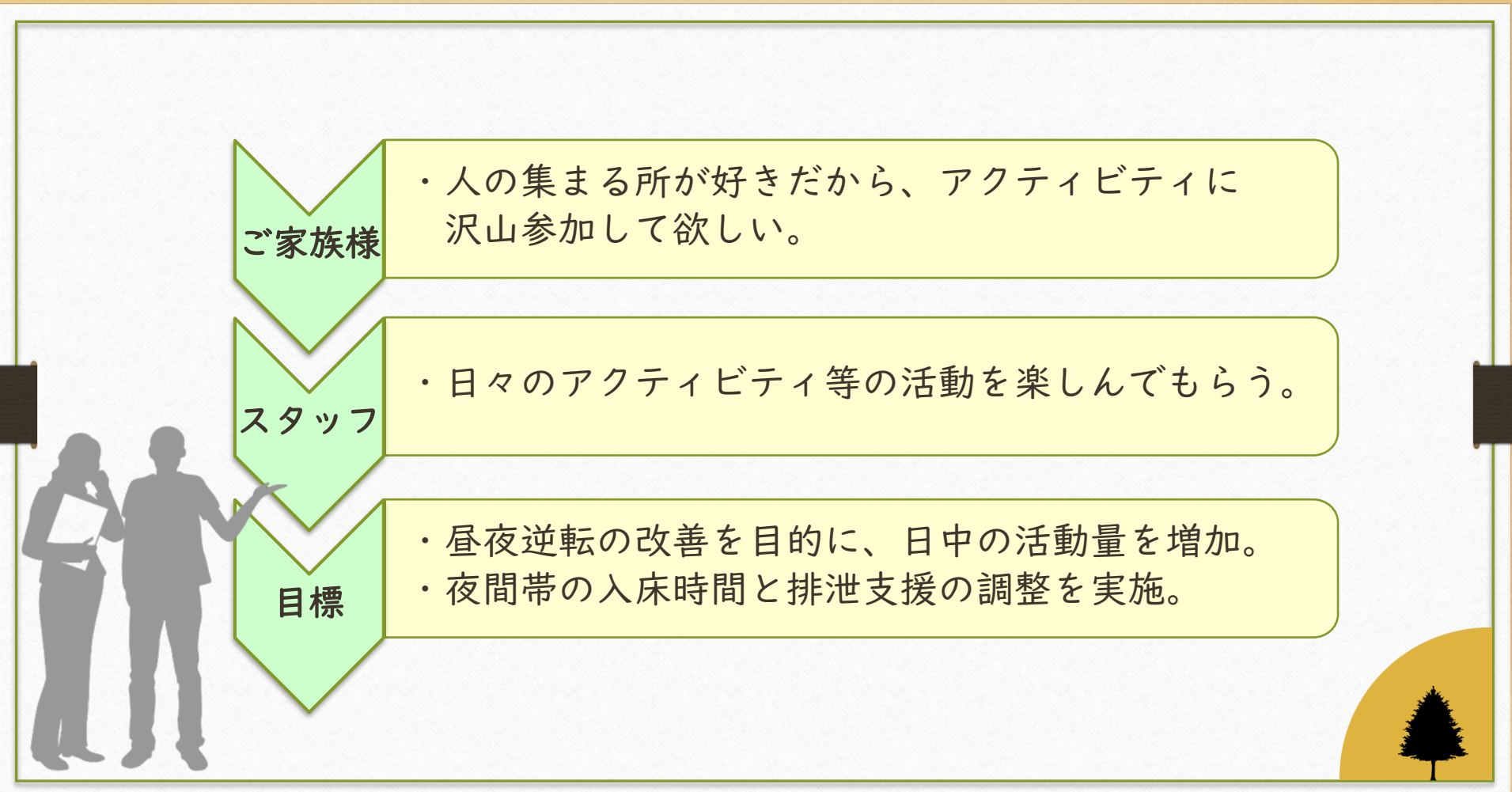


- ・ 頻回に鳴るセンサーマット、
夜間帯の起き出しや落ち着かれない状態。

- ・ 叫んだり、スタッフを叩く行動あり、
拘束時間も長く、負担に感じやすい。

27点

「12名の平均値」





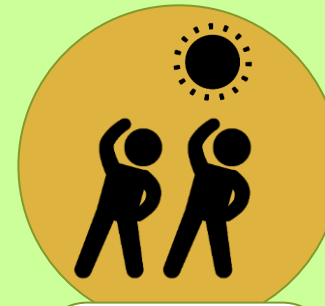
ご本人の状態

- 表情が穏やかになった
- 失禁回数が少なくなった
- 他のご入居者様と会話が見られた
- 日中の傾眠状態が少なくなった
- 活動量が少し増加した



睡眠状況

- 平均睡眠時間
3時間3分 ▶ 4時間39分
- 睡眠効率
31% ▶ 46%
- 臥床時間の変更により、頻回に起きられることが減少する
- 排泄介助の見直しにより、失禁回数が減少し、夜間帯覚醒されることが少なくなった



体操・アクティビティ

- 体操参加率
10% ▶ 45%
- アクティビティの参加率
12% ▶ 40%
- この2か月で数値上大きい変化が見られた
- 自発的な動きが徐々に見られるようになった





ご本人の状態

- 失禁回数が更に減少した
- 環境に慣れ自席がわかるようになった
- 日中の傾眠状態が殆ど無くなった
- 日中の活動量が大幅に増加した



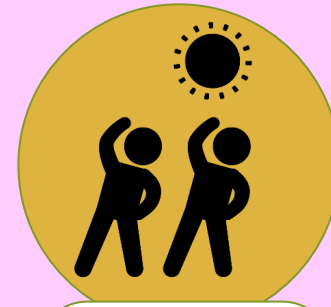
睡眠状況

● 平均睡眠時間

「変化期」 4時間39分 ▶ 「安定期」 6時間39分

● 睡眠効率

「変化期」 46% ▶ 「安定期」 61%



体操・アクティビティ

● 体操参加率

「変化期」 45% ▶ 「安定期」 76%

● 睡眠効率

「変化期」 40% ▶ 「安定期」 85%



- ・ 13点の改善
- ・ 夜間帯良質な睡眠が取れたことにより、頻回に起き出すことなくセンサーマットも鳴らなくなった

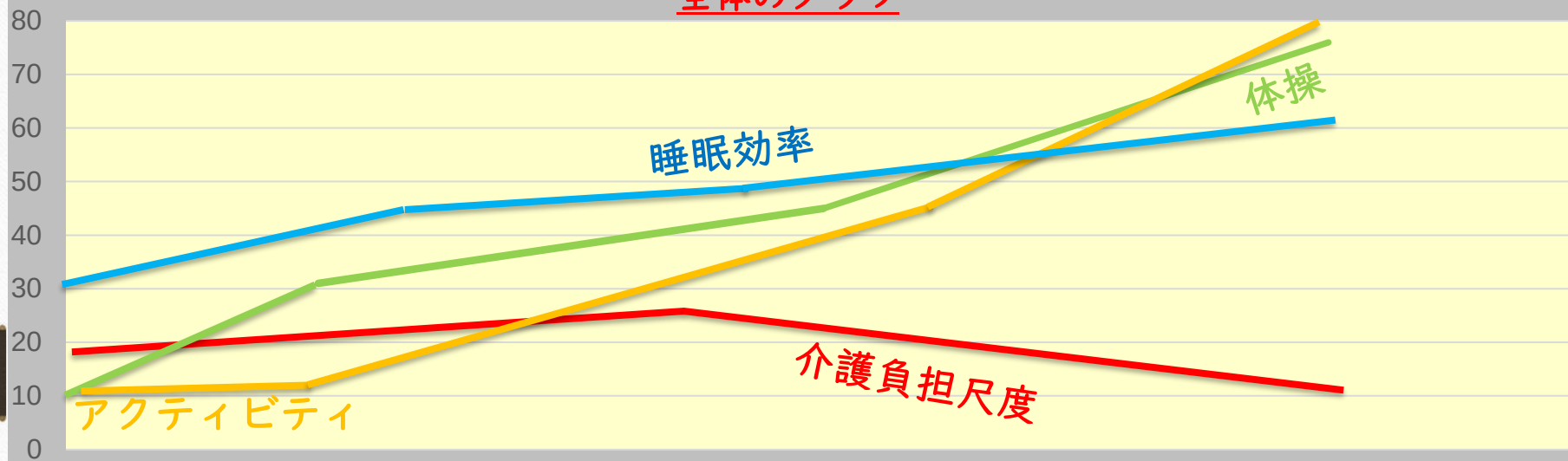
- ・ 叫んだり、スタッフを叩くこともほぼ無くなった
- ・ 介助者にかかるストレスは減少した
- ・ 全体を通して活動的になった



27点⇒12点



全体のグラフ



	「入居期」	「変化期」	「安定期」
体操	10%	45%	76%
アクティビティ	12%	40%	85%
介護負担尺度	27%	20%	12%
睡眠効率	31%	46%	61%

入居期

- ▶ 昼夜逆転状態
- ▶ 日中の活動が殆どない
- ▶ 感情的になる事が多い
- ▶ 表情が険しい

安定期

- ▶ 昼夜逆転改善
- ▶ 日中の活動量増加
- ▶ 感情的になる事が減少した
- ▶ 表情が穏やか

日中の活動量の改善や、夜間帯の排泄改善することで睡眠効率が上昇し、認知症の行動・心理症状「BPSD」が軽減しました。
今回のテーマの睡眠効率が上昇すると、行動・心理症状「BPSD」は軽減するのでしょうか？
ですが睡眠効率と行動・心理症状には関連性が見られました。



最後に、今回の取り組みのまとめをご報告いたします。

今回眠りスキャンを使用し、ケアの効果が見れる化され、より成果が実感できケアに対しての自信や手ごたえも感じられるようになりました。

眠りスキャンを用いて話し合い評価することでデータを元に話し合いも出来るため、ケアに関わるスタッフが納得して主体的にケアに関わる事が出来ました。

今回はA様のみのご報告でしたが、これからも眠りスキャンを活用したケアアプローチに挑戦していきたいと思います。

我々は介護職の専門職であり専門的な視点や技術を数値化しサービスの向上を目指し、今後も取り組んで行きたいと思います。





ご清聴 ありがとうございました

もみの樹渋谷本町

